



埋文だより

第22号

平成12年3月21日発行

文化財を守れ！文化財防火デー

昭和24年の奈良・法隆寺金堂の火災を機に、1月26日は「文化財防火デー」として、全国的に防火訓練などが行われています。県立埋蔵文化財センターではこの日に、始良町の当センターと国分市の上野原遺跡復元公開区で防火訓練を実施しました。

上野原遺跡では、復元家屋から出火したと想定し、国分地区消防組合の指導を受け、見学者の避難誘導や作業員が防火水槽からバケツリレーをして消火活動をするなどの訓練を行いました。当日はかなり寒く、風も強い日でしたが、見学者の協力を得て、職員・作業員ともに実際そのものの訓練ができました。日ごろの火の用心と文化財保護の大切さを再認識した一日になりました。



消火訓練の様子



上野原遺跡での消火訓練

目次

頁

- ・文化財を守れ！文化財防火デー …1
- ・特集① 交通網の発達と埋蔵文化財 …2
 - 九州自動車道 …3
 - 西回り自動車道
 - 東九州自動車道
- ・特集② 弓矢の発明と使用 …4
- ・ホケノ頭遺跡/大坪遺跡 …5
- ・平成11年度われら縄文体験隊 この1年 …6

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、
日曜日・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時までです。
お近くにお越しの節はぜひお立ち寄りください。（入館料は無料）

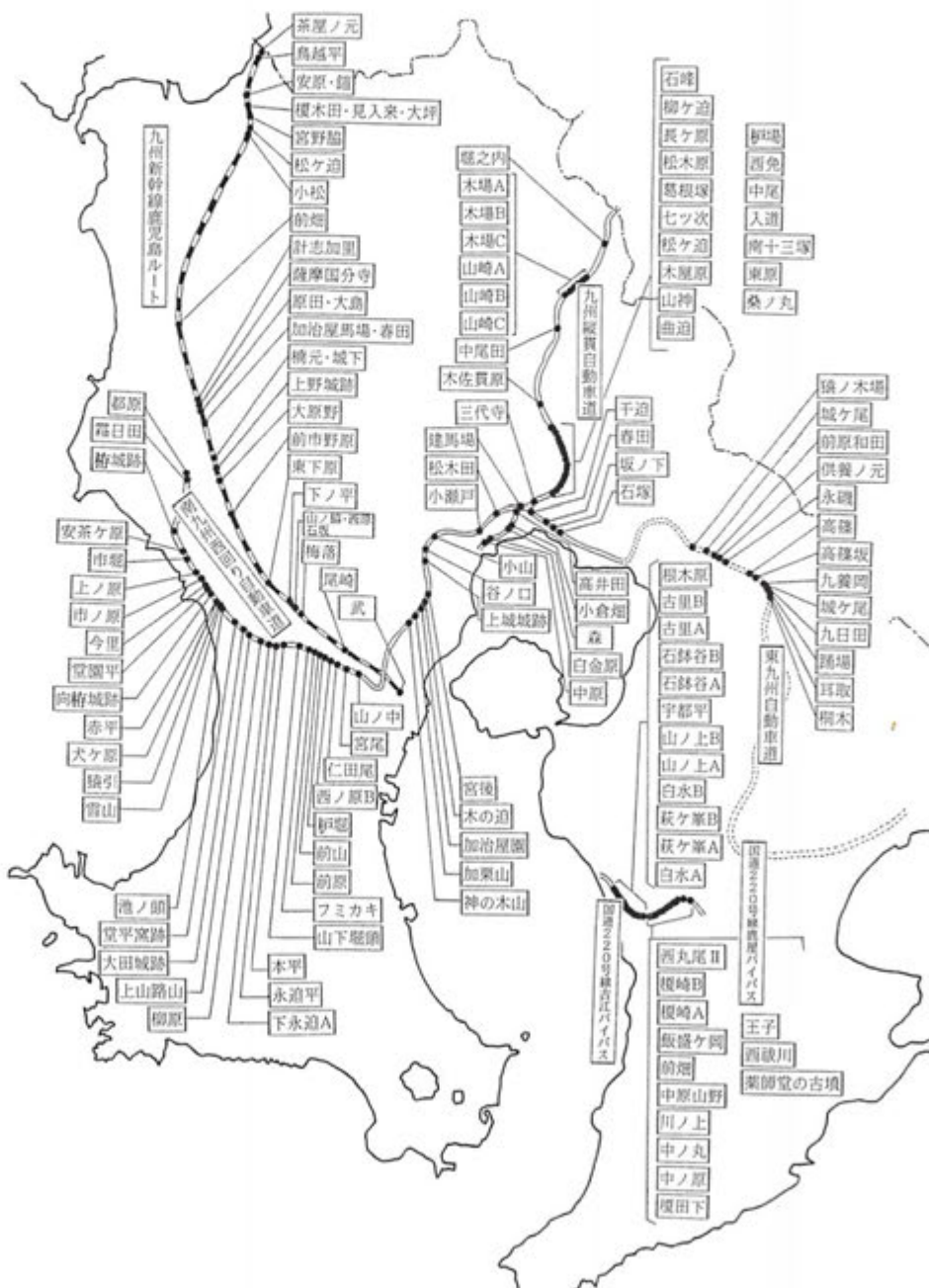
特集① 交通網の発達と埋蔵文化財

現在、県立埋蔵文化財センターでは県内各地で発掘調査を実施していますが、東九州自動車道建設、南九州西回り自動車道建設、九州新幹線鹿児島ルート建設に伴うものが主です。そもそも、県教育委員会に文化課（現文化財課）が設置されたきっかけになった一つに九州縦貫自動車道の建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査がありました。

下の地図は主要な交通網整備によって調査された遺跡をルート上に落としたものですが、遺跡の跡でルートが追えるのがわかります。

高速道路や新幹線によって私たちの生活も日々快適になっていきますがその前に多くの遺跡が調査されています。私たちはこの調査をとおしてこの南九州にかつて住んでいた人々の暮らしぶりを知るヒントを得ましたが、その場所は地形が変えられ、遺跡は失われてきました。

発掘調査は元に戻すことのできない遺跡を大切に記録に残すという重要な使命をもっているのです。



交通網整備によって調査された遺跡

九州自動車道

旧石器時代の遺跡 加治屋園遺跡《鹿児島市》

加治屋園遺跡は、昭和50年から51年に鹿児島市川上町の九州縦貫自動車道建設に伴い、標高約160mの舌状台地の先端部で地下約2mで発見されました。

特徴は、約15,000～14,000年前の旧石器時代の細石器文化にあたる細石刃と細石刃核等が多量に出土し、これらと一緒に縄文文化的要素の一つにあたる土器片も114点出土しました。

この状況は、旧石器時代の人々が気候の温暖化に伴い、生活が変化し始め、縄文時代へ移る様相を良く示しています。



加治屋園遺跡の全景



前原遺跡遺跡全景

西回り自動車道

縄文時代の遺跡 前原遺跡《松元町》

前原遺跡は、日置郡松元町に位置し、西回り自動車道建設に伴って平成3年度から8年度にかけて発掘調査が実施されました。発掘調査の結果、縄文時代早期前葉(約9,500年前)の集落跡が発見されました。

A地区と呼ばれる場所からは、「ハ」の字状に配置している竪穴住居跡が検出されました。また、B地区からは竪穴住居跡や連穴土坑の他に、道跡も検出されました。

約9,500年前の縄文ムラの様子が窺い知れる貴重な遺跡の1つです。

東九州自動車道

古代の遺跡 城ヶ尾遺跡《財部町》

城ヶ尾遺跡は、東九州自動車道建設に伴って本年度発掘調査を行っています。

右の写真は、平安時代(9世紀～10世紀初めの頃)の蔵骨器で、中には火葬されたお骨がはいっていました。

壺には土師器のお椀でふたがしてあり、その横にはお供えをしたと思われる坏が二つ置いてありました。

当時は土葬が主流であり、そのため特別な人が埋葬されていたと考えられます。



蔵骨器の出土状況(断面)

特集② 弓矢の発明と使用

弓矢の発明

今から約13,000年前、煮炊きに使われる土器が発明された頃とほぼ同じ時期に、狩りの道具にも大きな発明がありました。弓矢の出現です。

それまでは、動物の骨や黒曜石などの石で作られた槍で狩りをしており、それらの道具では獲物の側まで近寄らないと獲物を仕留めることが出来ませんでした。弓矢の発明により、遠くの物陰に隠れたりして獲物に気づかれないように狩りをするができるようになり、安定した食物の供給が可能となりました。



横井竹ノ山遺跡の遺物出土状況

矢じりの発見された遺跡①

横井竹ノ山遺跡 《鹿児島市》

本年度発掘調査を実施した横井竹ノ山遺跡は、昭和63年に鹿児島市教育委員会が調査をした場所の隣にあります。

約13,000年前の地層からは旧石器時代の最後に狩りの道具として使用された細石刃と、縄文時代の最初に使用が始まった石鏃が多量に発見され、それらに伴って土器も出土しています。また、その下の地層からは約23,000年前の剥片尖頭器と呼ばれる槍先なども見つかっています。

矢じりの発見された遺跡②

三角山 I 遺跡 《中種子町》

～ 不思議な穴のあるやじり～

三角山 I 遺跡は、熊毛郡中種子町の標高約245mの台地上にあり、平成7年から発掘調査をしています。これまでに縄文時代草創期・早期・前期の土器や石器がたくさん見つかっています。

本年度の発掘調査の中で最も注目されるものは、縄文時代早期の塞ノ神式土器（約7,500年前）と呼ばれる土器と同じ頃に穴をあけ磨いて作った矢じり（磨製石鏃）2点です。

このような穴をあけてある磨製石鏃は、同じ中種子町の須行園遺跡で1点見つかっています。そのほか、西之表市の種子島開発総合センターに古田二本松で採集したものが1点展示してあります。このように穴をあけてある磨製石鏃は、種子島から合計4点見つかっていますが、種子島以外の遺跡からは見つからないとても珍しいものです。

なぜ、種子島からだけ見つかりどのようにして何のために穴をあけたのでしょうか。



三角山 I 遺跡出土の石鏃

完形土器がザックザク



土器の出土状況

(写真提供：田代町教育委員会)

ホケノ頭遺跡 《田代町》

ホケノ頭遺跡（調査主体：田代町教育委員会）は、肝属郡田代町川原の標高約210mの南向き斜面に位置する遺跡で、平成11年11月から約1か月間発掘調査を行いました。

調査の結果、約10,000年前の縄文時代早期前葉の遺跡であることがわかりました。

土器は、平底のバケツ形をした岩本式土器が中心で、その他にも木などを切る道具である石斧や、狩りをするための磨製石鏃、水晶で作られた石器なども多数出土しました。

注目されるのは、岩本式土器が完全に近い形でまとまって10個体以上出土したことです。中には、土器の口縁部内面に赤色の顔料を塗っているものもありました。岩本式土器の完形品がこれほどたくさん出るのは初めてで、非常に貴重な発見となりました。

約3000年前の勾玉出土！！

大坪遺跡 《出水市》

大坪遺跡は、標高8mの低地に位置し、新幹線建設に伴って平成10年度から発掘調査が行われています。本年度の発掘調査では、今から約3,000年前の縄文時代晩期の土器や石器とともに、緑色に輝く勾玉・管玉・丸玉が出土しました。これらの玉類には、直径約2mm足らずの孔が穿たれ、まだ金属のない時代にこれほど精巧な技術を持っていたことに驚かされます。隣接する沖田岩戸遺跡でも数点の玉類が見つかっていましたし、玉を作るときに出る石くずも出土していますので、ここで作られていたと考えられます。

この時期には、再生を祈ったと考えられる埋設土器も11基が検出されています。

縄文時代のほか、奈良時代～平安時代のはじめの生活跡、約900年前の溝や道の跡、広い範囲で南北に区画された跡が見ついています。



大坪遺跡出土の玉類

平成11年度 われら縄文体験隊 この1年

「われら縄文体験隊」は、普及・啓発活動のひとつとして、小・中学生を中心に上野原遺跡を通して埋蔵文化財に親しみをもちたせることを目的とし、主に第4土曜日に活動してきました。

文化財少年団等の少年団をはじめ、学校のクラス単位・家庭教育学級等の団体と個人による参加で、各回平均40名程度の参加者がありました。

家族で参加する機会が多く、家族で楽しみながら協力し合って土器を作ったり、縄文クイズに挑戦したりする光景が数多く見られました。

参加者は、上野原遺跡を通して縄文人の生活に触れ、縄文時代の知恵を知り、当時の生活に興味・関心を膨らませているようです。

活動時期

第4土曜日（4・7・12・3月を除く月）
午前10時～午後3時

主な活動内容

- ・縄文土器を作ろう（オリジナル縄文土器）
- ・火起こしに挑戦（マイギリ・モミギリ）
- ・石器作りに挑戦（磨製石鍬作り）
- ・縄文コースター作り（アンギン編み物）
- ・縄文アクセサリー作り（貝殻ペンダント）
- ・縄文クイズに挑戦（ウォークラリー）
- ・縄文料理を楽しもう（燗製・石蒸し）
- ・縄文野菜を探そう（山菜取り）



縄文コースター作り



火起こしに挑戦



石器作りに挑戦



われら縄文体験隊



縄文料理を楽しもう

＝お詫びと訂正＝

「埋文だより」第21号に次のとおり誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

P2の3行 約17,000年前→約1,700年前
P2の4行 約16,000年前→約1,600年前

埋文だより 第22号

発行日：平成12年3月21日

編集・発行

鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-5652

鹿児島県始良郡始良町平松6252

TEL 0995-65-8787

FAX 0995-65-8117

E-mail: maibun@po.pref.kagoshima.jp